

JAPIC NEWS



Contents

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC**
Japan Pharmaceutical Information Center

巻頭言

「信頼」される製薬企業を目指して

旭化成ファーマ株式会社 代表取締役社長 浅野 敏雄 2

トピックス

「平成25年度JAPICユーザ会」を開催しました 4

「理事会」「評議員会」の概要報告 5

いわき明星大学薬学部で「iyakuSearch」検索実習を行いました 5

JAPICサービスの紹介

JAPIC Daily Mail (JDM) サービス-医薬品・医療機器の安全性に関する海外規制措置情報を提供 6

JAPIC Daily Mail Extra (JDMエクストラ) サービス-JDMの内容から個別の医薬品・医療機器に関する情報を選択提供 7

JAPIC Daily Mail Plus (JDM Plus) サービス-生物由来製品に関する感染症情報を提供 7

コラム

最近の話題「埼玉県の薬事行政(業務紹介)」 埼玉県保健医療部薬務課 脇田 一亮 8

薬剤師の現場「対話のできる薬剤師をめざして」 (一社)愛知県薬剤師会 薬事情報センター 竹林 まゆみ 10

くすりの散歩道 No.71「夏バテに梅はいかがでしょう。」 (一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 柏 志保 12

インフォメーション

医薬品集発刊!

「JAPIC医療用医薬品集2014」検索用DVD付を8月下旬発刊します 13

「JAPIC一般用医薬品集2014」を9月初旬発刊します 13

7月末に発売しました!

「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2013年7月版」 13

「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2013年7月版」 13

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋) 14

■図書館だよりNo.278 ■情報提供一覧 15

8

2013 | No.352

「信頼」される製薬企業を目指して

旭化成ファーマ株式会社 代表取締役社長
浅野 敏雄 (Asano Toshio)



いま、日本経済は長く暗いトンネルにようやく出口の明かりが見え始めました。

私が社会人になった1975年は、第一次オイルショックで戦後の高度経済成長時代が終焉を迎えた直後であり、翌年には史上最高の倒産件数が話題となるような時代でしたが、以来、バブルの時代、失われた20年など大きな波の中で、研究と経営に携わってきました。

良い時代も厳しい時代も経験してきた私が、最近特に大切だと考えていることが「信頼」です。

信頼とは

企業の健全な発展の為には、社会からの信頼がなければならぬことは言うまでもありません。公的医療保険制度の下で国民の健康と生命にかかわる事業に取り組む製薬企業が、いかなる産業にもまして高い信頼を得なければならないことも当然です。信頼は、製薬企業にとって最も重要な経営資源であると言っても過言ではありません。

では、信頼とはなんのでしょうか。

「信頼」と似た言葉に「信用」があります。信用は、「人」（自然人だけではなく法人も含めて）に対する評価であり、真面目・嘘をつかない・一生懸命などの

behaviorがその基礎になります。ある人が「信用は鏡のガラスのようなものである。ひびが入ったら、元通りにはならない。」と言いましたが、これを失うことは、その「人」にとって致命的なことです。「信用」は「信頼」を築く土台です。

「信頼」はこの信用を前提に頼るという意味ですから、その期待に応え結果を出すことで築かれます。従って、製薬企業は、患者さん・医療関係者・社会の期待に応える新薬を創製し、適正使用に取り組み、人びとの健康に貢献する努力を積み重ねていかなければなりません。

信頼を支えるもの

幸せなことに、日本の人びとは信頼のあふれる社会に生きています。患者さんは先生を信頼し、医療関係者の先生方は医薬品を信頼してくれています。信頼は空気のように遍く隅々まであふれています。

ですが、その信頼の陰にも、それを支える一人ひとりの、目に見えない地道な取り組みがあることを忘れてはいけないと思います。それはあたかもこの宇宙を支えるダークマターのようなものかもしれません。

私たちが目にしている沢山の星や銀河は、実は宇宙のごく一部で、わずか4%程度でしかないと言われています。

宇宙にある物質のほとんどが、光を発することもなく反射もしない、観測することのできない「ダークマター」や「ダークエネルギー」なのです。

我々の地球がある天の川銀河と同じ渦巻銀河の一つであるアンドロメダ銀河を観測すると、星が銀河の中心を軸に回転し、星の数は円盤の内側ほど多くなっていることが分かりました。このため、見えている星が銀河にある全ての物質だとすれば、星が多く集まる銀河の内側ほど星を内側に引っ張る引力が強くなり、強い引力と釣り合うためには強い遠心力が必要で、内側の星ほど回転速度は速くなるはずですが、ところが、星の回転速度が銀河の内側と外側でほぼ同じであることをある学者が発見しました。これを説明するには、星が少ない銀河の外側にもたくさんの物質がなければなりません。これが銀河には「ダークマター」があると言われ始めた理由です。

企業活動に於いては、研究・開発・製造・販売など様々な業務があり、それぞれの分野で目に見える成果を上げられる人もいれば、そうでない人もいます。ですが、誰かが「自分だけが会社を支えている」と考えれば、均衡が崩れます。信頼は、相手の行為が自分の期待と一致することを信じ、なお且つ期待した結果を相手に預ける事ですから、目に見える形で成果を上げてくれることは必要ですが、その為には、みんなが共通のルールに従って成すべきことに誠実に取り組んでくれるという信用と、一人ひとりが全体を支えているのだという自覚が必要です。

旭化成の場合

旭化成グループでは、「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献する」という企業理念の下、「誠実・挑戦・創造」を旭化成で働くすべての者が持つべき共通の価値観（グループバリュー）としています。このグループバリューは、理念追求の過程における基本的な姿勢ですが、「誠実」は最も基本的な、譲ることのできない姿勢

だと私は考えています。

「誠実」は、医療の世界に携わるものにとって最も基本的で最も重要な条件です。

研究者として社会人の第一歩を踏み出した私がこのような言い方をするのは違和感があるかもしれませんが、経営者の立場で見たときに、「社会は、『信頼』という目に見えない物質で形作られ、信頼は『信用』という名の目に見えないエネルギーで守られているのだ」という気がします。経営者の大きな役割の一つは、目に見えない「信頼」という資源を育てることかもしれません。

A Dream is a Wish Your Heart Makes

年配の方はご存知かもしれませんが、私の学生時代、旭化成の提供する「スターキーン」という番組がありました。この番組の最後に流れる曲が、トワ・エ・モアが歌う「愛を育てる」だったのですが、その中に「夢が世界を育てている 愛を育てる旭化成」という歌詞がでてきます。一人ひとりの心が紡ぐ健康でありたいという願いは、医療に携わるものの共通の夢だと思います。私は、そんな夢を実現して明日を育てる製薬企業を作りたいと思っています。

日本医薬情報センター（JAPIC）は、製薬と医療を繋ぐ懸け橋として長きに亘り国民の健康、医療の向上に貢献してこられました。私どもは、これからも会員企業として、共に手を携えて、国民の皆さん・社会からの信頼に応えられるよう努力してまいります。JAPICの、今後ますますの発展を念願しております。

「平成25年度JAPICユーザ会」を開催しました

平成25年度JAPICユーザ会を6月18日(火)日本薬学会長井記念ホール(東京)、6月21日(金)大阪ブリーゼプラザ(大阪)で開催いたしました。東京145名、大阪63名の方がご出席くださいました。

JAPICでは設立以来会員制を取り、会費及び事業収益を財源として運営しております。会員は製薬企業・卸等会員、医療機関等会員、診療所、薬局等小規模機関会員で構成しておりましたが、医療機器業界からの提供要請を踏まえ、本年4月より医療機器企業等会員制度を創設し、医療機器の安全性に関する情報等の提供を開始いたしました。今回のユーザ会には製薬企業、医療機関等に加えて医療機器企業の皆様にも多数の参加をいただきました。

JAPICから平成25年度の事業トピックスとして、
①本年8月開始予定の新規サービスである『海外文献学会カスタマイズ情報(海外文献モニタリングサービス)』、
②昨年トライアル提供を行い本年1月より開始いたしました『JAPIC-Q医療機器情報サービス』、
③現在開発中の『JAPIC医薬品総合検索システム(Pharma cross)』、
④6月より開始いたしました『JADER解析サービス～PMDA「副作用が疑われる症例報告」データを使用したサービス～』について各担当から紹介いたしました。

また事例紹介では、「JAPIC-QXサービス」について、実際にご利用いただいておりますユーザー様の活用事例をJAPIC担当者より紹介いたしました。

アンケート結果では、事業トピックス、事例紹介、いずれも多くの参加者にご興味をお持ちいただきました。皆様のご期待に添えるような開発とサービスができるよう、より一層努めますので今後ご支援賜りたく、改めてお願い申し上げます。



特別講演

特別講演は「これからの医薬品安全対策」と題して独立行政法人医薬品医療機器総合機構安全管理監 森 和彦先生にご講演いただきました。今回のご講演はリスク・ベネフィットバランスをテーマに、RMP(医薬品リスク管理計画)に基づくライフサイクルマネジメント、PMDAのプロジェクトMIHARI(Medical Information for Risk Assessment Initiative)、PBRER(定期的ベネフィット・リスク評価報告)等について、具体例をお示しいただいてのご講演で、安全対策を実施していく上で非常に参考になる内容でした。アンケートでは“わかりやすく面白く聴講できた”といった声を多くいただきました。

この講演内容は次号(9月号:8月30日発行)にて詳細をお伝えいたしますのでご期待ください。

懇親会やアンケートでいろいろなお意見を頂戴いたしました。ユーザの皆様役に立つサービスを継続して提供していけるように、頂いた課題にも真摯に向き合って参りますので、いつでも忌憚のないご意見をいただけましたら幸いです。(鈴木)

「理事会」「評議員会」の概要報告

一般財団法人への移行初年度の事業報告及び決算についての理事会及び評議員会が5月21日(火)、6月25日(火)にそれぞれ開催しました。議題と主な内容は以下のとおりであり、すべて原案どおり承認・議決されました。

今回の主な議題でありました、平成24年度事業報告・決算報告においては、事業及び決算ともに概ね順調に推移していることをご報告させていただきました。

なお、平成24年度事業報告書・決算報告書は、先般会員の皆様へお届けいたしました。

○「平成25年度第1回定例理事会(通算第125回)」

5月21日(火) 16:00~17:00、JAPIC4階会議室

《議題》

- 第1号議案 平成24年度事業報告の承認について
- 第2号議案 平成24年度決算報告の承認について
- 第3号議案 公益目的支出計画実施報告の承認について
- 第4号議案 定時評議員会の招集の決定について
- 報告事項-1 維持会員の異動について
- 2 代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告について

○「平成25年度第1回定例評議員会(通算第34回)」

6月25日(火) 16:00~17:00、JAPIC4階会議室

《議題》

- 第1号議案 平成24年度決算報告の承認について
- 報告事項-1 平成24年度事業報告について
- 2 公益目的支出計画実施報告について

いわき明星大学薬学部で「iyakuSearch」検索実習を行いました



平成25年7月4日にいわき明星大学薬学部医薬品情報学講座の富岡節子先生の授業において、JAPIC医薬品情報データベース「iyakuSearch」の検索実習を行いました。

当日は4年生およそ70名が実習に参加し、90分の講義時間でJAPIC職員が講師となり、iyakuSearchの概要説明後、医療用・一般用添付文書情報、医薬文献情報、学会演題情報のコンテンツを検索例題を通じて操作方法を理解していただき、最後に演習問題を解いていただきました。

検索実習は2回に分けて実施し、次回は臨床試験情報(JapicCTI)、日本の新薬(新薬承認審査報告書DB)の概要を説明し、検索例題、検索演習を実施する予定です。

JAPICの医薬品データベースは医薬品開発・市販後調査・安全業務のリスクマネジメントプロセスとリンクする多岐にわたった医薬品情報を提供しています。教育機関に限らず、製薬企業のiyakuSearchご利用機関向けに検索実習を行っています。ご興味のある方は、お問い合わせください。(蓼沼)

〔お問合せ先〕事務局 業務・渉外担当 (TEL:03-5466-1812 Email:gyoumu@japic.or.jp)

❖ JAPICサービスの紹介 ❖

JAPIC Daily Mail (JDM) サービス

—医薬品・医療機器の安全性に関する海外規制措置情報を提供

◆JAPIC Daily Mail (JDM) サービスとは・・・

医薬品の市販後調査の基準に関する省令〔医薬品GPMSP（現GVP/GPSP）〕の一部改正に伴う外国措置情報の収集等の業務支援を目的として、平成13年5月より製薬企業会員を対象に開始したサービスです。

◇外国の最新の安全性措置情報を提供

医薬品・医療機器の製造、販売等の中止、表示改訂（「BOXED WARNING」、「CONTRAINICATION」、重要な使用上の注意の改訂等）、回収情報等、安全性に関する措置の情報を選択し、日本語概要、該当原文のURLをつけて、毎日（JAPIC営業日）電子メールで提供します。

◇情報収集は8カ国2機関約90サイトから

米国FDA、EU/European Medicines Agency、英国MHRA等、8カ国2機関（米、英、独、仏、豪、カナダ、スウェーデン、ニュージーランド、EU、WHO）及び日本の規制当局等のホームページ約90サイトを毎日チェックしております。

◇「プレ送信」と「本送信」の2回提供

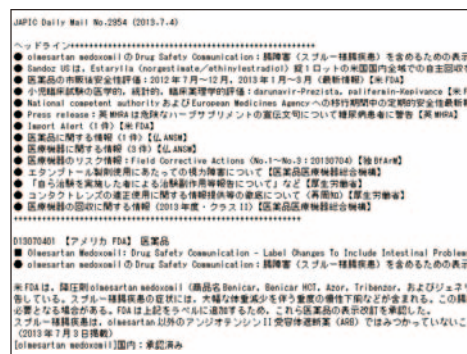
「プレ送信」は午前中に、当日提供予定の外国の措置情報を、日本語概要を加えずに原文のまま送信し、迅速な情報提供を求めるユーザー様のご希望にお応えしています。

「本送信」は午後には、日本語概要を加えて送信します。

〈プレ送信〉



〈本送信〉



◆特長

◇外国における安全性措置情報の収集に役立ちます。

外国における医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報の迅速な入手及び関連医薬品・医療機器等の対応ツールとして高い評価をいただいております。また、外国だけでなく国内の措置情報の収集にも役立ちます。

◇措置情報の収集労力と費用の節減になります。

◇情報収集のためのサイトは随時見直し・追加をしています。

豪TGAおよび独BfArMについてこれまでのサイトに加え、2013年より新たなサイトを追加し医薬品・医療機器の回収情報などが充実しました。

◇データベースも利用可能です。

医薬品情報データベースiyakuSearch Plus のJAPIC Daily Mail (JDM) DBもご利用いただけます。過去の記事の検索なども可能です。

◇無料トライアルを行っております。

JAPIC Daily Mail Extra (JDMエクストラ) サービス —JDMの内容から個別の医薬品・医療機器に関する情報を選択提供

◆JAPIC Daily Mail Extra (JDMエクストラ) サービスとは・・・

JDMの内容からご登録いただいた医薬品・医療機器についての情報を選択して個別に提供するサービスです。平成21年度より開始しました。

◇ご登録いただいた医薬品・医療機器に関する情報をメールで提供

JDMサービスご利用ユーザー様を対象とし、JDMで提供した内容から、ご登録いただいた医薬品・医療機器に関する情報を検索し、検索結果及び該当記事をメールにて提供します。

◇該当原文のURLの中の医薬品名・医療機器名についても検索でき、より網羅的な情報収集が可能

◆特長

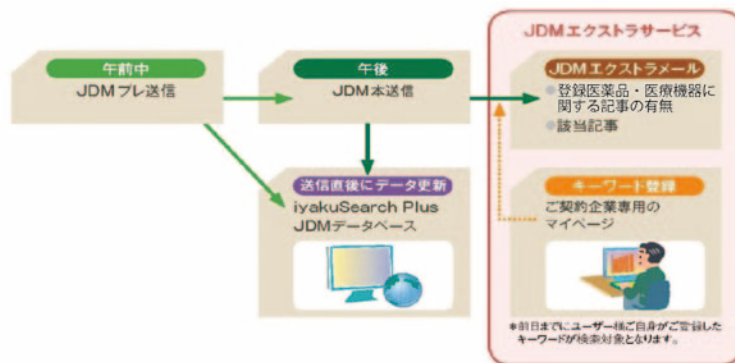
◇毎日のJDMの確認における見落とし防止に役立ちます。

◇マイページにて医薬品名・医療機器名（キーワード）をご登録いただけます。

このサービスをご利用いただくユーザー様には、Web上の専用マイページにて、ご自身で医薬品名・医療機器名をご登録いただけます。

◇検索履歴や登録された医薬品・医療機器をマイページで管理できます。

検索結果及び該当記事は、メール（エクストラメール）での個別提供に加え、マイページにおいても確認することができます。



JAPIC Daily Mail Plus (JDM Plus) サービス —生物由来製品に関する感染症情報を提供

◆JAPIC Daily Mail Plus (JDM Plus) サービスとは・・・

国内外の有用なWebサイトを調査し、生物由来製品の由来となる生物、原材料、原料又は材料から人に感染すると認められる疾病に関する情報（新規感染症、既知感染症の発生頻度の増加、新規感染経路、生物由来製品による感染症の発生等）を電子メール（Excelファイル）により週1回、月曜日に提供するサービスです。

◇日本語の概要に該当原文へのリンク、キーワード（感染症、動物種）を加えて提供

◇情報収集は19機関約50サイトから

WHO、OIE、EU、各国機関（米、英、カナダ、独、豪、スウェーデン、日本など）20機関約50サイトをチェックしています。

最近の話題

埼玉県の薬事行政（業務紹介）

埼玉県保健医療部薬務課
脇田 一亮 (Wakita Kazuaki)



昭和12年（1937年）に日本で最初に設置された保健所の一つが埼玉県所沢市にあることをご存知でしょうか。恥ずかしながら入庁するまで私は知りませんでした。最初の勤務先である保健所の先輩方と見た「農村保健館跡」と書かれた記念碑（所沢駅東口に設置）がとても印象的でした。

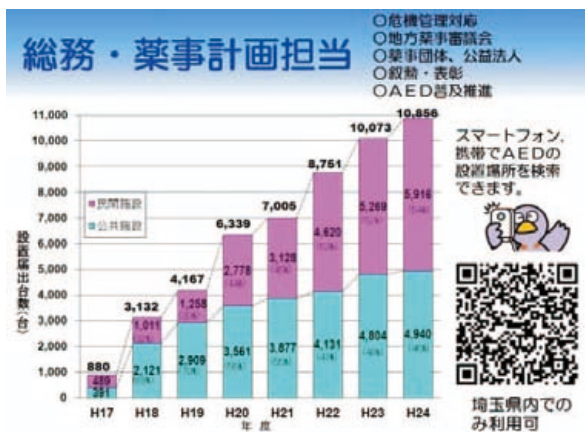
また、私が所属する薬務課は県庁内でも歴史が古く、昭和22年に警察部衛生課薬務係から昇格して、衛生部薬務課となって以降、当時から課名が変わっていない数少ない課でもあります。

今、改めて歴史ある組織に属していることを認識し、身の引き締まる思いがいたしました。

さて、私の職場では、職員31名（薬剤師28名）、非常勤職員3名（薬剤師）が主に薬事行政に関わる業務に従事しています。

本稿では、埼玉県における薬事行政について、担当ごとに主な業務を紹介させていただきます。

【総務・薬事計画担当】私が所属する担当です。



- ・県薬剤師会と連携し在宅患者訪問薬剤管理指導の推進業務を行っています。
- ・危機管理対応として災害用医薬品等の備蓄、関係団体と協定を締結するなど供給体制を整備しています。毎年図上訓練も行っています。
- ・自動体外式除細動器（AED）の設置促進や設置情報の公表など普及推進に取り組んでいます。

埼玉県のマスコット
「コバトン」
薬剤師バージョン

彩の国  埼玉県

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/h08/>

【薬物対策担当】

薬物対策担当

- 薬物乱用対策（違法ドラッグ、麻薬・覚せい剤等）
- 毒物・劇物の安全管理対策
- 県有ワクチン種の保管管理

違法ドラッグに注意！！
違法ドラッグ（いわゆる脱法ドラッグ）は、規制を逃れるため、「合法ハーブ」や「アロマ」などと称して、店舗やインターネットなどで、様々な形で販売されています。乱用者自身の健康被害にとどまらず、麻薬や覚せい剤等の乱用の契機となることも懸念されるとともに、犯罪等に悪用されるおそれもあるものです。
絶対に購入しないでください。

やくよけコバトンNetは、埼玉県のマスコット「コバトン」が、10代、20代の若者と地域、行政のパイプ役となり、若者の薬物乱用を防止するためのネットワークです。
協力店で携帯待ち受けFlashを提示すると、料金割引などの特典が受けられます。

- ・毒物及び劇物取締法に基づき化学工場での流出事故対策などを行っています。
- ・麻薬取締員が麻薬及び向精神薬取締法、大麻取締法、覚せい剤取締法及びあへん法に基づき取締を行っています。
- ・違法ドラッグ等の製品検査や警察と連携し、販売店の指導を行っています。
- ・若者への薬物乱用防止として、学校や家庭での予防啓発や保健所等での電話相談・指導による更生支援を行っています。
- ・まむし抗毒素や狂犬病ワクチンなどの緊急用血清・ワクチンの備蓄を行っています。

最近の話題

【献血・温泉・薬事情報担当】



- ・献血への理解を深めることや日本赤十字血液センターによる献血が円滑に実施されるよう計画を策定し、献血の推進活動を行っています。特に高校生献血の推進に力を入れています。
- ・温泉の掘削や利用に関する許可を行っています。
- ・県民から年間約1,200件のくすりに関する相談を受けています。そのうち約3割が副作用などの安全性に関すること、同様に約3割が使用方法に関することです。この相談業務にはJAPICの書籍やデータベースを活用させていただいています。

【販売指導担当】

販売指導担当

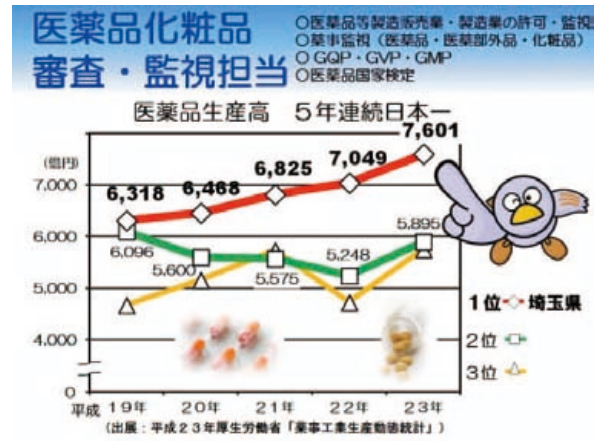
- 薬局・医薬品販売業・医療機器販売業
- 薬事監視（販売業）
- 健康食品の広告に関する相談・指導
- 後発医薬品の使用促進

個人輸入したダイエット薬にご注意！

インターネットでタイから個人輸入した「MDクリニックダイエット」と称される製品は、これまで死亡事例を含む重篤な健康被害が報告されています。このような製品を入手し服用しないでください！

- ・薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業の許可に関する業務をしています。
- ・無承認無許可医薬品（健康食品）の広告に関する相談、指導を保健所とともにしています。
- ・ジェネリック医薬品安心使用促進協議会を設置するなど、その使用を促進する事業を行っています。
- ・インフルエンザワクチン等が安定供給されるように関係機関と連携し、調整する業務を行っています。

【医薬品化粧品審査・監視担当】



- ・実は、医薬品生産額が日本一なんです。（平成23年薬事工業生産動態統計調査）
- ・医薬品、医薬部外品、化粧品の製造販売業及び製造業の許可及び監視指導を行っています。
- ・国のPIC/S加盟申請に伴い、埼玉県も世界標準GMPへ対応すべく、調査員の資質向上と監視指導体制の強化・充実を図っています。
- ・医薬品、医薬部外品の知事承認を行っています。
- ・医薬品等製造販売業等のGQP・GVP、医薬品製造業のGMPに基づく査察を行っています。
- ・国の委託を受けて、医薬品国家検定に関する抜取や封緘などを実施しています。県内に5社21製品の製造所があり、国内の約3割を担っています。

【医療機器審査・監視担当】

医療機器審査・監視担当

- 医療機器製造販売業・製造業・修理業の許可
- 薬事監視（医療機器）
- GQP・GVP・GMS

県内で製造されている主な医療機器

- 人工呼吸器
- 医療用エックス線装置
- 輸液ポンプ
- 人工心臓用回路
- ▲ コンタクトレンズ
- ▲ 電子体温計
- ▲ 家庭用磁気治療器
- など

埼玉県で作られた医療機器は家の中から医療の現場まであらゆる場所で活躍しています。埼玉県の医療機器生産金額は全国第8位です。

- ・医療機器の製造販売業、製造業及び修理業の許可及び監視指導を行っています。
- ・医療機器製造販売業のGQP・GVP、医療機器製造業のQMSに基づく査察を行っています。
- ・産業振興部局と連携し、医療機器産業発展の支援を行っています。

対話のできる 薬剤師をめざして

(一社)愛知県薬剤師会 薬事情報センター
竹林 まゆみ (Mayumi Takebayashi)



2010年にこのコラムで、愛知県薬剤師会の情報センターでの業務を紹介させていただいたことがあります。その時は、新事業として「妊娠・授乳サポート薬剤師」養成講座を実施していく予定です、と書かせてもらいました。その後、県の委託事業として始めた養成講座も4年目を迎えています。今回は、この事業の成果をご紹介します。今回は、この事業の成果をご紹介します。

◇事業目的

平成21年度より「妊婦・授乳婦医薬品適正使用推進研究班」*を設置し、妊娠・授乳中の女性の疑問・質問にきちんと向き合い、適切な情報源を利用して適切に判断し、適切なコミュニケーションをとってサポートができる薬剤師、さらには医療従事者へ適切なアドバイスができる薬剤師を養成する。

*妊婦・授乳婦医薬品適正使用推進研究班

小児科医師 2名 産婦人科医師 1名
病院薬剤師(「妊娠と薬外来」担当者) 1名
薬学部准教授 1名 薬剤師 3名 で編成

◇事業計画

1. 医療関係者を対象に「あいち・くすりフォーラム 妊娠と授乳のくすりと母と子の健康」を開催する(平成26年2月2日予定)
2. 妊娠・授乳中の薬剤使用に対して適切な情報提供ができる薬剤師の養成
3. 集積した相談事例を添付文書、書籍、海外での評価を示し、その評価を踏まえての研究班での意見を記載した事例一覧を作成する
4. 集積した相談薬剤のデータベースによる蓄積

5. 医療関連多職種間のコミュニケーションを図り、地域医療に貢献する

◇「妊娠・授乳サポート薬剤師」養成講座の研修内容

平成22年度より、「妊娠・授乳サポート薬剤師」養成講座(1年度50名を対象)を実施。

研修内容は、「妊婦、胎児、授乳婦の生理」、「胎児、乳汁への薬物移行と考え方」、「妊婦・授乳婦と疾患・治療」、「コミュニケーションの基礎」など。演習部門では、「薬物移行の計算演習」、「情報源の入手方法、活用法」、「妊婦・授乳婦を対象としたカウンセリング」などを習得し、プログラム期間中には実際に受けた相談事例を提出。最終講座では修了試験を受け、プログラムを修了した受講者には修了証を渡す。

◇妊娠・授乳サポート薬剤師および受講者数

22年度 妊娠・授乳サポート薬剤師数:44名
23年度 妊娠・授乳サポート薬剤師数:43名
24年度 妊娠・授乳サポート薬剤師数:42名
25年度 受講者数 :52名

◇受講者の感想・活動(一例)

- ・妊娠と授乳についての知識を得られるだけでなく、実践で役立つ知識や、コミュニケーション力など総合的に学ぶことができた。普段の業務で、妊娠されている方や授乳婦さんからの質問に、自信をもって答えられるようになっていた。
- ・添付文書に書かれている可否のみで不安を抱えながら判断していたが、そこには授乳を止めるというリスクということが考慮されておらず、実際にはケースバイ

ケースで判断しなければならないことが多いということが良くわかった。添付文書やインタビューフォームにも多くの情報があり、自分で判断可能なことも多いことが分かった。コミュニケーションの見直しができよかった。

- ・店頭でポスターなどを貼り積極的に相談にのるようになった。
- ・地区の子育て支援事業に参画している。
- ・産婦人科クリニックでのお薬教室の講師を務めた。

*「妊婦・授乳婦医薬品適正使用推進研究班」で作成しました、「妊娠・授乳と薬対応基本手引き 改訂2版」、パンフレットは愛知県薬剤師会ホームページ・医療関係者のページ「妊婦・授乳と薬」からダウンロードしていただけます。



さて、簡単に愛知県薬剤師会が取り組んでいます「妊娠・授乳サポート薬剤師」養成講座の概要をご紹介させていただきましたが、最近の私がよく口にするのが、「コミュニケーション不足」という言葉です。何も服薬指導や薬の説明の時だけのことでなく、日常でのやり取りで感じていることです。

メールを頻繁に活用することで早く意思の確認ができるはずなのに、字数を気にすることで、簡単な文章で内容をまとめなければいけなくなっています。簡単にし過ぎて主語を省いてしまったり、同時に幾つかの質問を投げかけると、そのうちのいくつかの回答は忘れられていたり。簡潔にし過ぎてかえって、意思が通じず、同じ内容について行ったり来たり…。やはりメールが便利であるとはいえ、微妙なニュアンスや相手の感情を読み取るには声を聴くことや顔を見ることが、まだまだ必要かと。面と向かって話していても思いもしない方向に思い違いされることがあるのに、字だけで伝えようとするには文才

のない私には難しいのは当然かもしれません。

こんなことを感じ出したのは、「妊娠・授乳サポート薬剤師」養成講座のお手伝いしている影響からです。私ですらコミュニケーションの必要性を感じているので、実際に受講された先生方には多大なる反省点と課題を与えられたはずで

先日、6年制薬学部を卒業して2年目と思われる方が、服薬指導に関する基本的なことを示した書籍はないですかと情報センターを訪ねてくれました。「疾患に関係なく、本当に基本的なことで、どんなことを告げなくてはいけないのか・・・」と。日々患者と向き合い、頑張っているからこそその疑問であり、悩みでしょう。

さあ・・・そう尋ねられた私は・・・

もちろん診療報酬の点数に関与する内容および添付文書に記載されている注意事項は当然なことですが、それらを注意する理由を説明する。例えば服用法でも何で1日1回飲めばいいのか。この時間帯に服用する意味など。何故、指示を守ってもらわなければいけないのかを説明して、何が心配か、何を困っているのか聞き出せて、話していくことで、安全に安心して服用してもらうこと、それが服薬指導じゃないか・・・って。先生方が日ごろ行っておられることと何ら違いはないはずで

あるメーカーが行った「服用に関する意識・実態調査」によると、飲み忘れが7割、6割以上が服用を途中でやめている、4人に1人は用量を自分の判断で調節しているとあります。また、指示を守らない理由に「指示を理解していなかったり、誤解していた」、「複雑な指示を守らなければならない」、「服用する必要ないと信じている」などというものがあげられていました。

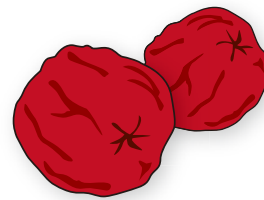
アドヒアランスの向上にもやはり「コミュニケーション」が左右してくると思います。

パソコンや機械では代わることのできない対話を武器として、医薬品の適正使用に役立ていきたい。話さないと伝わらないこともある!!と思うこの頃です。



「夏バテに梅はいかがでしょう。」

(一財) 日本医薬情報センター 医薬文献情報担当
柏 志保 (Kashiwa Shiho)



夏真っ盛りの8月ですが、皆様いかがお過ごしで
ございますか。私も夏の暑さは大の苦手、例年夏
バテに苦しんでおります。暑さで食欲が落ちるだけ
でなく、寝苦しくて睡眠不足にもなり早く涼しい秋
になってほしいなと思ってしまう。私のそんな暑
い時期につい食べたくなるものの一つが、梅製品で
す。梅干しや梅ジュースはもちろん、お菓子売り場に
並んでいる梅菓子もかなり好きです。そう考えてみる
と、いろいろな加工品があるのだなと思いました。皆
様もお好きな食品はありますか。

まだ暑い夏になる前のことですが、6月のとある休
日に梅にまつわるイベントがあり、行ってくる機会が
ありました。全く農作物には疎い私ですが、いろい
ろな発見がありましたのでそのときの様子をご紹介さ
せて頂きます。イベントでは梅の歴史や、梅を使った
食品と健康の話、梅酒づくり体験など梅の魅力が満
載でした。6月前後の梅雨という呼称もこの時期が
梅の実の旬であるからだろうと単純に思っておいま
したが、由来はその他諸説があるようでした。詳しく
は忘れてしまいましたが、長い歴史はそんなに単純
なものではないということが私にとってはひとつの
発見でした。

特に面白かったのは、梅酒作り体験でした。これ
までも興味はあったのですが何となく難しそうなイ
メージがあって、梅酒を作ることは初めてでした。し
かし実際作ってみると、結構簡単にできてしまった

ので驚きでした。美味しい梅酒を作るポイントとして
は、サイズの大きな梅(2L~3L)を選ぶこと、梅の実
を傷つけないようにヘタをとること、洗ったあとの水
分をとるときもやさしく拭くことなどがありました。こ
の時作ったものを自宅に保管して今1か月くらいたち
ましたが、徐々に液体が琥珀色へと変化してしま
した。ときどき内容物を混ぜた方がよいとのことでした
ので、1日1回は様子を見つつ混ぜています。3か月ほ
どたてば飲めるということでしたが、飲み頃は1年後
くらいだそうなのでそれまで待ってようかなと思
います。ただ私は忘れっぽい性格なので、それまでに
作ったことを忘れないように気をつけないといけな
いです。

梅の健康効果といえばクエン酸の疲労回復効果
などが浮かびますが、調べてみると近年では、がん
抑制効果やピロリ菌による慢性胃炎に対する抑制
効果、インフルエンザ感染症の予防効果などが研究
され論文として発表されているようでした。美味し
く食べて、健康にもよいのであればまさに一挙両得
です。まだまだ秘められたパワーを持っているので
はないかと、今後の研究が期待されるのではないで
しょうか。

今年も夏バテに梅のパワーを活用し、この暑さを
乗り切りたいと思います。

医薬品集発刊!

◇「JAPIC医療用医薬品集2014」検索用DVD付を8月下旬発刊します

- ・6月21日付の後発品薬価収載、効能追加等を含む、7月3日入手分までの情報を収載(約19,000製品)
- ・医療用医薬品添付文書情報を有効成分(約2,100成分)ごとにまとめて掲載。約1,400成分については「構造式」も掲載
- ・同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより効能・効果が異なる場合はその違いを明記
- ・先発品(またはそれに準じるとと思われる医薬品)と後発品及び局方品が明確に区別できるように記載



◇「JAPIC一般用医薬品集2014」を9月初旬発刊します

- ・2013年3月に発出された一般用漢方製剤の添付文書等に記載する使用上の注意に関する通知を掲載
- ・最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集
- ・国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅



7月末に発売しました!

「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2013年7月版」

- ◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報(2013年7月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。
- ◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。
- ◇薬価、規制区分、剤形、添加物、先発品等/後発品情報なども収録。
- ◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現!
- ◇単品¥15,000(税込)。年間セット4枚(7月・10月・1月・4月) ¥25,000(税込)。



「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2013年7月版」

- ◇一般用医薬品(一部の医薬部外品含む)の添付文書記載情報を収録したWindows対応CD-ROM。
- ◇一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能。
- ◇検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。
- ◇インターネット経由で、添付文書PDFの表示が可能。
- ◇¥3,150(税込)/単回。



【お問合せ先】事務局 業務・渉外担当 (TEL: 0120-181-276、FAX: 0120-181-461)

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より — (抜粋)

2013年6月3日～6月29日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.405-408)の記事から抜粋

■米FDA

- FDA Safety Communication : immune globulin製品に関連した血栓症についての新たな枠組み警告
<<http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/SafetyAvailability/ucm355986.htm>>
- FDA Safety Communication : 医療機器および病院ネットワーク向けサイバーセキュリティについて;サイバー攻撃による障害リスクを低減するための適切なセーフガードの実施を確実にするための対策を講じることを推奨
<<http://www.fda.gov/MedicalDevices/Safety/AlertsandNotices/ucm356423.htm>>
- 米FDA, ロタウイルスワクチンと腸重積症に関するMini-Sentinel市販承認後観察研究の最終結果を発表
<<http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/SafetyAvailability/ucm356758.htm>>
- Drug Safety Communication : Zyprexa Relprevv (olanzapine pamoate) — 注入後における2例の死亡について米FDAが調査
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm357601.htm>>
- FDA Safety Communication : hydroxyethyl starch溶液—死亡や重度腎損傷の増加に関する枠組み警告および出血リスクについて
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm358349.htm>>

■Health Canada

- Health Canadaのレビューはcodeineの使用を12歳以上の患児のみに限定することを勧告;小児に直接または母乳により乳児に投与された際の、codeineに起因する重篤な副作用および死亡の稀なケースに基づき
<<http://www.healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2013/33915a-eng.php>>
- ketoconazoleと生命を脅かす恐れのある肝毒性のリスクについて
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2013/34173a-eng.php>>
- hydroxyethyl starch溶液を特定の重症患者に対して使用すべきではない;HES治療患者における腎不全や死亡リスクなど
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2013/34299a-eng.php>>

■英MHRA

- 英MHRA, hydroxyethyl starch (HES) 輸液の使用中止を発表;ベネフィットはリスクをもちや上回らないとして
<<http://www.mhra.gov.uk/home/groups/comms-po/documents/news/con287029.pdf>>

■EU・EMA

- PRACは小児における疼痛緩和用codeineの使用制限を勧告;呼吸抑制リスクのため、他の鎮痛剤で疼痛緩和ができなかった12歳以上の小児における中等度急性疼痛の治療のみに用いるべきであることなど
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Referrals_document/Codeine_containing_medicinal_products/Recommendation_provided_by_Pharmacovigilance_Risk_Assessment_Committee/WC500144445.pdf>
- PRAC, 選択的COX-2阻害薬における心血管系の使用上の注意をdiclofenacに適用するよう勧告
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Referrals_document/Diclofenac-containing_medicinal_products/Recommendation_provided_by_Pharmacovigilance_Risk_Assessment_Committee/WC500144452.pdf>
- PRACはhydroxyethyl-starch含有注射液の製造販売承認の停止を勧告;ベネフィットはリスクを上回らないと結論付けたことなど
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Referrals_document/Solutions_for_infusion_containing_hydroxyethyl_starch/Recommendation_provided_by_Pharmacovigilance_Risk_Assessment_Committee/WC500144448.pdf>

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外)担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

【新着資料案内 平成25年6月10日～平成25年7月1日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著編者	出版者	出版年月
医療の個別化に向けたファルマコビジランスの理論と実際	鈴木 伸二	薬事日報社	2012年12月
厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業混合性結合組織病の病態解明、早期診断と治療法の確立に関する研究 平成24年度総括-分担研究報告書	研究代表者 吉田俊治		2013年3月
コンピュータ化システムバリデーション実務解説 -入門からPIC/S対応まで-	望月 清	情報機構	2013年6月
実例で学ぶ薬剤疫学の第一歩	くすりの適正使用協議会	レーダー出版センター	2008年10月
投薬禁忌リスト<平成25年版>		じほう	2013年5月
廣川薬科学大辞典第5版	薬科学大辞典集委員会	廣川書店	2013年3月
薬事衛生六法2013		薬事日報社	2013年4月

情報提供一覧

【平成25年7月1日～7月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. [JAPIC Pharma Report-海外医薬情報]	7月5日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [添付文書入手一覧] 2013年6月分 (HP定期更新情報掲載)	7月1日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [JAPIC NEWS] No.352 8月号	7月26日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. [JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版 (CD-ROM)]	7月31日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5. [JAPIC OTC医薬品CD-ROM]	7月31日	5. 臨床試験情報	随 時
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		6. 日本の新薬	随 時
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.888-891 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	8. 医薬品類似名称検索	随 時
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
4. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.2951-2972	毎 日	〈iyakuSearchPlus〉 http://database.japic.or.jp/nw/index	
5. [JAPIC Weekly News] No.408-411	毎週木曜日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
6. [Regulations View Web版] No.266-267	7月12日・26日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.498-502	毎週月曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
8. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉 https://e-infostream.com/	
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 http://jdream3.com	

JAPIC

医療用医薬品集2014

〈検索用DVD付〉



- ◆2013年6月後発品まで収載
- ◆約40年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新情報に基づき作成
- ◆検索用DVD(非インストール版)付
(DVD単体8,000円(税込)で別途販売しております。)
- ◆便利な「薬剤識別コード一覧」
(冊子。別売2,940円 税込)の無料請求葉書付
- ◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収載
- ◆更新情報メールの無料提供(要登録)

2013年8月下旬発売

B5判 約3,500頁 / 13,650円(税込)

■検索用(非インストール版) DVD Windows版 とは

◆収録内容

- 医療用医薬品集
- 一般用医薬品集
- 薬剤識別コード一覧
- 薬価情報
- 後発品の全情報
- 添加物情報
- 最新添付文書画像(PDF)の表示機能付
(無料・要インターネット接続。PDFは毎週更新)

定価: 8,000円(税込)

※インストール版(CD-ROM)は15,000円(税込)で別途販売しております。

JAPIC

一般用医薬品集2014

- ◆リスク区分(第1類~第3類医薬品)をわかりやすく表記。
- ◆最新の一般用医薬品添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集。
- ◆国内流通医薬品をほぼ網羅する12,000製品を収録。
- ◆個々の製品について製造・販売会社、組成、添加物、適応、用法、リスク区分を記載。
- ◆付録には、リスク区分情報、ブランド名別成分比較表、国内副作用報告の状況、重篤副作用疾患別対応マニュアル等を収録。

2013年9月上旬発売

B5判 約2,000頁 / 9,450円(税込)



一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 TEL 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

はす

夏の花の一つに蓮がある。果実が蜂の巣に似ていることから蓮(はす⇒はす)と命名された。仏教国に行くとお供えに沢山の蕾が売られている。日本でも神社仏閣の池などに相応しい。蓮根はその根茎であり、「見通しが利く」という縁起を担いでお正月のおせち料理にも欠かせず、蓮実は民間薬にも使用される。(ky)



JAPICホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。